

21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

PRESS RELEASE

2010.3.29

金沢21世紀美術館 平成22(2010)年度の事業スケジュール

金沢21世紀美術館は「開かれた美術館」。
現代の表現発信の拠点、コミュニティの中心としての役割を果たします。

金沢21世紀美術館は、開館以来「開かれた美術館」を目指してきました。昨年度5周年を迎え、あらためて美術館の活動を振り返り、その成果は出ていると確信しています。そして6年目。金沢21世紀美術館はさらに新しい方向へ向かっていきます。

2010年度は、まず「Alternative Humanities～新たなる精神のかたち:ヤン・ファーブル×舟越桂」展で幕をあけます。この展覧会は、ルーヴル美術館からゲスト・キュレーターを迎えて開催する共同企画です。この展覧会に代表されるように、金沢21世紀美術館では、新しい美術の在り方や次の時代を予感できるのであれば、積極的に国内外の美術館とも連携し、よりレベルの高い企画を作り上げていきたいと考えています。さらに次頁以降に示した通り、今年度も多彩な展覧会や交流事業を通じて現代の様々な価値観を提示できると考えます。

また昨年度、教育普及活動をテーマにした国際的なシンポジウムも開催し、これまで私たちが展開してきた活動を客観的に見る機会を得ました。それを踏まえ今年度以降、金沢21世紀美術館の魅力の一つである「美術館教育」をさらに深化させていきたいと考えています。

美術館には多くのお客様が訪ねて下さいます。友の会やボランティアとして、美術館に深く携わって下さる方々もたくさんいらっしゃいます。友の会のロゴマークも新たに決まりました。来館者との関係を深め、様々なレベルでお客様に楽しんでいただける、それは金沢21世紀美術館の大きな使命です。

金沢市は、昨年クラフト部門でユネスコ創造都市に認定されました。国内外から文化都市としての金沢への期待が高まっていることを感じます。美術館の存在もその中にあります。伝統と現代性が調和した金沢というまちの中で、現代の表現を発信する拠点として、また街のコミュニティの中心として、金沢21世紀美術館の役割を果たしていきます。

金沢21世紀美術館館長 秋元雄史

2010年度 展覧会スケジュール (予定)

展覧会 / 月	2010												2011			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
特別展 & 長期プロジェクト	Alternative Humanities ～新たなる精神のかたち ヤン・ファーブル × 舟越桂		4/29		8/31											
	高嶺 格 Good House, Nice Body ～いい家・よい体		4/29		8/28		作品展示(長期インスタレーションルーム)----- 3/21 ----- 3/21 作品公開制作(プロジェクト工房)-----									
	ベーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス						9/18		12/19							
	ホンマタカシ展										1/8		3/21			
	桑山忠明展										1/8		3/21			
コレクション	八谷和彦《OpenSky》プロジェクト		4/29		8/31		9/11		コレクション展		4月上旬					
デザインギャラリー	ミナベルホネン 開催中		5/30		6/12		みかんぐみ		9/26		D&DEPARTMENT PROJECT / ナガオカケンメイ		10/9		アンティーク・クロックの魅力 1/30 2/5 5月上旬	

※本内容について、貴媒体にて広く掲載・周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。

※本内容は2010年3月現在の予定です。最新情報、チケット情報はウェブサイトやチラシをご覧ください。

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 広報担当: 落合・黒田・沢井
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
http://www.kanazawa21.jp
E-mail: press@kanazawa21.jp



特別展&長期プロジェクト

特別展

Alternative Humanities
～新たなる精神のかたち

ヤン・ファール × 舟越 桂

4月29日(木・祝) → 8月31日(火)

左 | ヤン・ファール 《Je me vide de moi-meme (I let myself drain)》 2007 個人蔵
 作品：ロヒール・ファン・デル・ウェイデンの原作に基づく《ブルゴニユ公、フィリップ善長公(1396-1467)の肖像》
 ルーヴル美術館絵画部門、M1818 photo: Attilio Maranzano ©Angelos / Jan Fabre
 右 | 舟越桂 《森の奥の水のほとり》 2009 西村画廊蔵 撮影：渡邊修 ©Funakoshi Katsura



ヤン・ファールと舟越桂——本展は現代美術をリードする作家の大規模な二人展であると同時に、それぞれの創造の源泉を歴史的名画に表れた宗教的図像のなかに探り、21世紀の人間性とは何かを考えようとするものです。

ベルギーに生まれたヤン・ファールは、15-16世紀フランドルの宗教画と呼応しながら、自身の血で描いたドローイングや動物の骨や剥製など有機的素材から成る彫刻によって矛盾に満ちた人間の存在を問いかけます。

一貫して楠の木彫りに取り組む舟越桂によって生み出される異形の人間像は、現代を生きる人間の内面を雄弁に語り、日本文化の一大変革期である幕末明治の観音像にみられる日本人の複雑な心情や死生観との共鳴を示します。

本展は、ルーヴル美術館の現代美術担当キュレーターとして活躍中のマリー＝ロール・ベルナダック氏との共同制作によって実現するものです。また企画アドバイザーの高階秀爾氏と古田亮氏が美術史研究の視座から、二人の現代美術家と壮大な人間の歴史とのつながりを総合的に検証します。約190点にのぼる作品が集い、古今東西が出会う場となる本展は、洋の東西や時代を超えて今に息づく人間の精神のかたちを問います。

◎料金

一般1,500円(1,200円) / 大学生1,200円(1,000円) / 小中高校生600円(500円) / 65歳以上1,200円
 * ()内は前売、団体料金

長期プロジェクト

金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム

高嶺 格

Good House, Nice Body ～いい家・よい体

4月29日(木・祝) → 2011年3月21日(月・祝)

作品展示: 4月29日(木・祝) → 2011年3月21日(月・祝) / 長期インスタレーションルーム

作品公開制作: 8月28日(土) → 2011年3月21日(月・祝) / プロジェクト工房

参考作品: 高嶺格 《Twist & Twist》制作風景, 2009



常に自身の体験や身体を絡めながら社会的論点を炙り出してきた現代美術家 高嶺格が、人間の営みや意識の断片を鮮烈な映像言語で浮かび上がらせる新作の映像インスタレーションを発表。8月からは、土嚢というシンプルな素材を用いて、通常の「建築」概念では実現し得ないフォルムとプロセスで家を構築し、参加者とともにひとつの造形空間を作り上げていく過程を公開します。

「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」

ストックホルム近代美術館による十代後半の若者向けの教育普及プログラム「ゾーン・モデルナ」をモデルとし、2007年に始動したプログラムで、美術館が若者に芸術活動参画の機会を提供し、人間形成へ貢献することを目的としています。金沢21世紀美術館では、若者がアーティストとの芸術活動を通して成長する、独自の長期プロジェクト型展覧会を展開しています。

Peter Fischli David Weiss 《The Least Resistance》 (original title: "Der geringste Widerstand") 1981 Film Stills ©The artists
 Courtesy The artists, Spruth Magers Berlin London, Galerie Eva Presenhuber, Zürich, Matthew Marks Gallery, New York

特別展

ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス

9月18日(土) → 12月19日(日)



スイスのチューリッヒ在住のペーター・フィッシュリとダヴィッド・ヴァイスによるアジア初の個展。写真、立体、映像など様々なメディアを柔軟に操る彼らは、身近な光景や事物に真摯な眼差しを向け、その意義のずれと多様さを、綿密な計算と偶然性によって提示し、皮肉とユーモアを織り交ぜながら社会や人間の本性を突く世界を生み出します。本展では当館の空間の特色をフルに生かしたユニークな展示により、初期の作品から現在までをトータルに展観します。

◎料金

一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高校生400円(300円) / 65歳以上800円

* ()内は前売、団体料金

特別展

ホンマタカシ展

2011年1月8日(土) → 3月21日(月・祝)

ホンマタカシ 《Tokyo and my Daughter》 2005 ©Takashi Homma



本展は、現代美術の写真表現において第一線で活躍してきたホンマタカシの、美術館における初の回顧展です。ファッション誌や写真集などの数多くの印刷媒体における活動を、実際の印刷物を展示室に広げることによって概観する展示や、自然界とそこでの生物の営みを主題としつつ写真というメディアそのものへと迫る近作を用いたインスタレーション、そして当館のために用意された最新作など、多彩な作品と展示を通してその広範な表現に迫ります。

◎料金

「ホンマタカシ展」と「桑山忠明展」の共通観覧券

一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高校生400円(300円) / 65歳以上800円

* ()内は前売、団体料金

特別展

桑山忠明展

2011年1月8日(土) → 3月21日(月・祝)

桑山忠明 《川村記念美術館のためのプロジェクト》 1996
 メタリック塗料、ベークライト加工した合板 240.0 x 18.0 cm (各: パネル2枚ジョイント)、136点 (パネル272枚)



1960年代より、美術の純粋化を目指して進化しつづける現代美術家、桑山忠明の新作展。絵画的な要素を排した、人工的で無機質なパネルの連続が創り上げる空間は、鑑賞者を未知の世界へと誘います。本展では、プロポーションの異なる大小の展示室や光庭など、当館の特徴ある建築空間を最大限に生かしたインスタレーションで、桑山の空間表現の新展開を紹介します。

◎料金

「ホンマタカシ展」と「桑山忠明展」の共通観覧券

一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高校生400円(300円) / 65歳以上800円

* ()内は前売、団体料金

コレクション

コレクション展

9月11日(土) → 2011年 4月上旬

モナ・ハトゥム 《地図》1998 ガラス玉 撮影：木奥恵三



1980年代以降に制作された作品を中心とする当館コレクションを紹介する展覧会です。複雑な視点を織り交ぜ、価値観の変化や転換と呼応する先鋭的な作品を展示し、現代社会の諸問題を問いかけます。

◎料金

一般350円(280円) / 大学生280円(220円) / 小中高校生 無料 / 65歳以上280円

* ()内は、団体料金

八谷和彦《OpenSky》プロジェクト

4月29日(木・祝) → 8月31日(火)

八谷和彦の《OpenSky》は「個人的に飛行装置を作ってみるプロジェクト」として開始され、実際に乗られる1人乗りのジェット・グライダーを実現することを目標にしているものです。2010年、最終段階に入った《OpenSky》の全貌を、設計書、テスト飛行記録映像、シミュレーターなどを交えて紹介します。

八谷和彦 《M-02》2004-06 撮影：木倉裕貴



デザインギャラリー

ミナ ペルホネン

「The future from the past 未来は過去から」

1月16日(土) → 5月30日(日)



時を経ても色あせない洋服づくりを目指すファッションブランド「ミナ ペルホネン」。そのデザインはオリジナルの生地をつくることから始まり、膨大なアーカイブは、未来をかたちづくる源となっています。本展では、未来と過去のつながりを表現する2点のドレスを展示します。

みかんぐみ

「みかんぐみのアイデアワークショップ - みんなの学校」

6月12日(土) → 9月26日(日)



子ども達の学びの場である小学校。一日のほとんどを過ごす教室や共有スペースなどは使いやすいものでしょうか。規格化された場に人が合わせるのではなく、機能や役割を考えながら子ども、教員、地域コミュニティになじむ新しい学びの空間を共に考えます。

デザインギャラリーでは、この他にも展覧会やワークショップ・プログラム等を通じて同時代の多様なデザインの諸相を紹介し、デザインの新しい可能性を創造・発信していきます。

D&DEPARTMENT PROJECT / ナガオカケンメイ 10月9日(土) → 2011年1月30日(日)
アンティーク・クロックの魅力 2011年2月5日(土) → 5月

ステージ・イベントプログラム

ステージ・イベントプログラムでは、「つなぐ」ことをテーマに、シアター21を中心に観客と作品、伝統と現代、時間と場所、音楽と芸術など様々な出会いを求めるとともに、自由な発想でオリジナリティあふれる企画を展開していきます。

ピックアップ

ヤン・ファールブル
「Another Sleepy Dusty Delta Day」
10月2日(土)・3日(日)



©Christophe Raynaud de Lage

特別展「Alternative Humanities—新たなる精神のかたち:ヤン・ファールブル×船越 桂」に続き、ダンスシーンでも世界をリードするヤン・ファールブルの舞台作品を上演します。1958年ベルギー・アントワープ生まれ。演劇やオペラの演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとしてジャンルを超えた作品を生み続け、現代の最も革新的かつ多才なアーティストとして世界的に注目を集めている作家です。本作品は2008年アヴィニオン演劇祭で初演され絶賛を受けたソロ・ダンス公演。ファールブルの作品に共通する「愛と死」をテーマに、ダンス、言葉、音楽、アートなどのエッセンスが凝縮された舞台作品です。あいちトリエンナーレ2010(名古屋)、高知県立美術館、アイホール(兵庫県伊丹市)、当館の4カ所でツアー予定。日本初演。

パフォーマンスシリーズ

金魚(鈴木ユキオ) 新作公演「HEAR」
鈴木ユキオ(ダンス)×辻直之(アニメーション)×内橋和久(音楽)

8月21日(土)・22日(日)
レジデンス期間:8月9日(月)→8月22日(日)



「言葉の縁」撮影:池田ひらく

リアルで生々しい身体表現にこだわり、ドキュメンタリーのような即興性をはらむダンスで注目を集める鈴木ユキオが、昨年に続き金沢で新作の滞在制作に挑みます。「言葉」のもつイメージ、音、そして身体性にもっと入り込んでいきたい、と語る鈴木。独特な木炭画アニメーションで世界各地の映画祭でも活躍する辻直之と、即興と楽曲の境界を消し去るような独創性に満ちたアプローチを行なう内橋和久の音楽とともに限りなく自由な世界を創り出します。当館では、2年に一度開催されるトヨタコレオグラフィアワード「次代を担う振付家賞(グランプリ)」受賞者による滞在制作と公演を行なうと共に、継続的に新進振付家たちの金沢での創作活動をサポートし、当地からのコンテンポラリーダンスの発信を目指します。

映像シリーズ

映画の極意 vol.9
ジャック・ロジェのヴァカンス
7月17日(土)→19日(月・祝)



ジャック・ロジェ「オルエットの方へ」1969-70年

1960年代フランス・ヌーヴェルバーグ(ニューウェーブ)旗手の一人、ジャック・ロジェ監督の特集。ゴダールが絶賛し、現在までに作られた映画は十数本という寡作の伝説的映画監督の代表作6本を上映します。ロジェ監督作品の日本での上映はこれまで映画祭などに限られ、貴重な上映機会となります。

映像シリーズ

映画の極意 vol.10
ポルトガル映画特集
秋予定



ジョアン・セザール・モンテイロ「神の結婚」1999年(上映予定)

日本・ポルトガル修好150周年を記念してお届けするプログラムです。日本未公開作品を含む十数本を上映予定。

※ 両映像シリーズとも、コミュニティシネマセンターが主導する全国のシネマテーク(商業目的ではない映画館)のネットワークにより上映が可能となるものです。シネマテークは、映画史上重要な作品や上映の機会が少ない希少価値の高い作品にスポットを当てその上映の実現を目指しています。全国的にフィルム上映が減少する中、映写機を常設する当館シアター21で観る事ができる貴重な機会となります。

ミュージックシリーズ

ベーゼンドルファーを弾く

年間数回



当館オープン時に、金沢市観光会館(現金沢歌劇座)で眠っていたピアノをシアター21のハウスピアノとしてオーバーホールした1962年製ベーゼンドルファーが主役のシリーズ。今年は、子どもから大人まで楽しみながらピアノの歴史と発達を知ってもらおうと、2006年に好評を得たレクチャーシリーズ「ピアノの歴史探訪の旅」を復活。幅広い世代にベーゼンドルファーの魅力をお届けします。また恒例の「クリスマス・ジャズ特集」も実施。シアター21のアットホームな空間でベーゼンドルファーの響きを体感することができるプログラムです。

ミュージックシリーズ

music@rt SeasonIV

「カテドラルの響き」

4月24日(土)・25日(日)

「Merry Marubi Christmas IV」

12月23日(木・祝)



「音楽と美術の新しい出会いを美術館で」井上道義&オーケストラ・アンサンブル金沢21世紀美術館シリーズ4年目。昨年、建物全体にパイプオルガンを響かせ好評を得た「カテドラルの響き」。美術館があたかもヨーロッパのカテドラルのように変身する企画です。毎年恒例のMerry Marubi Christmasでは、天使のようなOEKエンジェルコーラスの歌声でクリスマス気分を盛り上げます。

トークシリーズ

二十一世紀塾 二〇一〇

No.1 6月19日(土)

年間3回予定



様々なジャンルで活躍するアーティストや知識人との話を定期的に設置、発展させていく二十一世紀の寺子屋です。今年は若い才能や新しい表現が生まれてくる現場を作っているキュレーターをモデレーターに迎え、今まさに誕生してくるモノや表現を体感していただけます。

トークシリーズ

フランソワーズ・モレシャンのおしゃれ講座～時代を読む

Vol.4 5月22日(土)

年間数回



金沢21世紀美術館国際アドバイザーのフランソワーズ・モレシャン氏を迎えて展開する「アートとファッション」を主眼にしたトークシリーズ。今年は、ゲストをお迎えしての対談形式も予定。毎回テーマにちなんだドレスコードも好評です。

広場事業

Golden まるびい Week '10 4月29日(木・祝)→5月5日(水・祝)

まるびい de パーティ 6 10月9日(土)→11日(月・祝)



広場では、今年もゴールデンウィークと開館記念日の10月9日を中心に毎年好評を得ているミニSL、アートzaマーケット、まるびい茶会などのほか、館内外を舞台に繰り広げる観客巻き込み型パフォーマンスなど毎回新しいプログラムで盛り上げます。

※本写真撮影:池田ひらく